

燃料アンモニアについて

第16回 水素・アンモニア政策小委員会

2026年3月27日

一般社団法人クリーン燃料アンモニア協会
会長 久保田 伸彦

クリーン燃料アンモニア 普及に向けた状況

つくる

非化石電源 + 水電解



グリーン水素

化石燃料 + CCUS



ブルー水素



NH₃製造

はこぶ・ためる



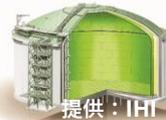
NH₃キャリア



NH₃タンク

2026年

4万トン級タンク建設中



提供：IHI

2026年
4万m³NH₃燃料船
竣工予定



提供：日本郵船

2024年
ナガサキ分解炉
NH₃燃焼実証



提供：IHI

2023年
ガラス溶融炉
NH₃燃焼実証



提供：AGC

つかう

発電利用



火力用ボイラ, ガスタービン

輸送利用



NH₃燃料船

産業利用



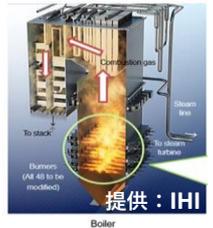
工業炉 熱供給

H₂供給



NH₃分解

2024年
20%混焼
実証完了



提供：IHI

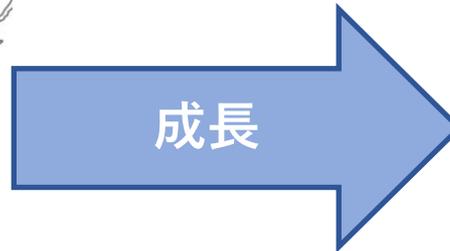
2025年
2MW級
専焼GT
実証完了



提供：IHI

クリーン燃料アンモニア 普及と成長に向けた課題

- ✓ 2050年カーボンニュートラル達成のためには、大規模な水素・アンモニア需要を創出する発電分野周辺において、脱炭素が困難な分野の産業における脱炭素化推進が不可欠
- ✓ 今後の普及と成長に向けて、低コストNH₃製造（革新的技術）が課題。利用においては、徐々にアンモニア直接利用が広がってきているものの、大型GT、工業炉利用開発の促進が必要。また、H₂大規模利用に向けてアンモニアクラッキングの実証が期待される。
- ✓ アジア地域の持続的成長と脱炭素を両立させるために、国・地域における最適な脱炭素ソリューションとして、日本の技術を活用したトランジションモデルを提供する。
- ✓ 昨今の社会情勢や世界的インフレ等から、継続して脱炭素を推進していくためには、予見性が高く、柔軟な制度、需要供給サイドへのインセンティブが必要



日本各拠点にて、脱炭素に向けた取り組み促進



アジア地域へ、最適な脱炭素ソリューションを提供